



3年間を振り返って③・・・『おらが学校づくり』への思い

本校赴任が決まり、「5つ小学校の統合校」から、「北浦地区の小学校」という『おらが学校・北浦小学校』づくりを保護者・地域の皆様と一緒に進めていきたいと考えました。

そのように考えるきっかけとなったのが、映画『みんなの学校』でした。映画化された学校は大阪市立大空小学校。地域の住民や学生のボランティアだけでなく、保護者らの支援も積極的に受け入れた「地域に開かれた学校」として多くの大人たちで見守れる体制を作っている学校です。教育理念は「**すべての子供の学習権を保障する学校をつくる**」です。大空小学校長・木村泰子（きむらやすこ）先生と直接お話をさせていただく機会がありました。その時一番心に残ったのが次の言葉です。

「学校のことを自分の学校として協力してくださる方がボランティアをやってくださっているから、大空小学校が存在できるのです。」

私は、北浦小学校を大空小学校のようにすることではなく、北浦地区の地域性や環境を活かした『おらが学校』を創っていきたく考えました。そのために、次の3つの構想を考え、取り組みました。

- ①地域の皆様に本校教育理念（「認め・見守り・導く」）を理解していただき、授業や学校行事へ積極的に関わってもらうこと。
- ②特色ある学校づくりとしての「歌声あふれる学校づくり」へ理解・協力を得ること。
- ③子供のしつけ、学習・体力づくりは学校と連携し家庭でも指導すること。

3つの理念は、令和元年度はどうか進めることができました。地域の食材を生かしたおはぎ作りや地域の方をゲストティーチャーとした生活科や社会科の授業、NHK合唱コンクールへの参加、SNSの使い方についての保護者説明会等を実施することができました。しかし、令和元年度末からコロナ禍となり、学校行事はもちろん、通常の授業も実施できない状況になってしまいました。そうした中でも、『**子供たちのために、何ができるか、どう工夫すればできるか**』と考え、**教育活動**を行いました。残念ながら、保護者・地域の皆様から「北浦小学校はおれらが学校だ！」という思いをもってもらうようになったかは不安です。私自身も達成感はなく、残念でなりません。

来年度から行方市内の小学校は、学校運営協議会制度（コミュニティスクール）をスタートさせます。学校・家庭・地域が連携し、学校づくりを進めていきます。北浦小の『おらが学校づくり』が進められることを願っています。

「書くゾウくんタイム」・・・児童一人一人の表現力→「自信」

茨城新聞に毎週月曜日に「茨城こども新聞」のコーナーがあります。その中に、『ふきだし×どうぶつ』というコーナー（右写真参照）があり、これまで本校児童5人が選ばれています。絵から文章を想像して吹き出しに書き入れる活動は、児童の柔軟な発想や想像力を高める素晴らしい活動です。

本校では、今年度後半から金曜日の「北浦タイム」を『書くぞう君タイム』と銘打ち、児童一人一人の表現力、特に「書く力」の育成を目的として取り組んでいます。先日、「書くぞう君タイム」のまとめの活動として、「書くぞう君コンテスト」を実施しました。第1回目のお題は『ありがとう』です。半数近い児童が応募しました。入選児童には賞状と書くぞう君オリジナルシール（左写真参照）が贈られました。作品には家族・友達・先生と感謝の気持ちが綴られていました。

本校の先生方は、児童が楽しく学べるように工夫してくれています。楽しく学び続けることで、児童は自分のよさや可能性にも気付くこともできます。また、新聞に掲載されることで自信もつきます。授業でも、学校行事でも、児童が自分の思いや考えを自信をもって発表できる学校に少しずつ近づけています。

家庭でも、我が子の小さな頑張りや成果をしっかりと認めて、褒めてあげることが大切です。ある心理学者の研究データによると、「保護者が学校を信頼していると、その子供も学校を信頼する。どんなに教室で先生方が頑張っても、家に帰って親が学校の悪口を言っていると、子供が学校・先生を信頼してくれない。」そうです。保護者の皆様も本校の先生方の頑張りや認めていただき、信頼していただきたいと思います。そのためにも、児童が自信をもてるようになる取組・活動を今後も続けてまいります。



